

震災犠牲者 合唱で悼む

レクイエムプロジェクト

災害犠牲者を合唱で悼む「レクイエム・プロジェクト仙台」のコンサートが4月13日、仙台市青葉区の日立システムズホール仙台（市青年文化センター）で開かれる。東日本大震災と東京電力福島第1原発事故をテーマにした宮城発の詩に、プロジェクトを主宰する作曲家上田益さん（68）＝東京＝が曲を付けた混声合唱組曲「なつかしい未来へ」を初演する。

仙台のメンバー約50人と全国の参加者のほか、仙台市長町中と五橋中の合唱部も特別出演し、総勢100人超が出演する。

「なつかしい未来へ」の詩は、宮城県名取市のローカルジャーナリスト寺島英弥さん（68）が書いた。

た。これまでの取材を基に、原発事故で古里を奪われた福島県浜通り地方の人々の心象を表現。荒れ果てた帰還困難区域の現状や古里の人々との再会の願い、若者に記憶を語り継ぐ思いを言葉にした。

上田さんによる組曲は明暗の対比の美しい4曲で構成。「阪神大震災から30年たった神戸では、街並みから震災の記憶が消えていき、被災者は複雑な思いを抱いている。土地の歴史を切り離さずに未来をつくる大切さを歌う詩は、各被災地が共感できる内容だ」と話す。

プロジェクトで上田さんが寺島さんの詩に曲を付けたのは、東日

来月13日・仙台公演 詩に思い込め

本大震災10年の節目の2021年に発表した「また逢える」のちの日々かさねて」以来となる。寺島さんは「希望が感じられる音楽に仕上げていただいた。取材と形が違って、被災地からの発信、伝承の方法の一つだと思っている」と話す。

プロジェクトは阪神大震災の犠牲者を悼んで08年に神戸市で始動、仙台では13年にスタートした。現在は仙台、神戸、東京と広島、長崎両市の5カ所で活動する。

午後2時半開演。前売り1000円（当日1500円）、小学生無料。連絡先は実行委員会090

のメンバー
コンサートに向けて練習する合唱団



(3648) 18688。